

和紙職人を目指して



石州和紙会館にて石州和紙の原料を混ぜる菊地さん

和紙研修生にインタビュー

今年の3月から三隅町に移住して、石州和紙の研修に励んでいる二人の女性がいます。2016年の冬に三隅町での事前研修を経て、2017年3月半ばより研修を始め、三隅町にある4つの和紙工房にてそれぞれ約1ヶ月ずつ研修をこなしてきた。その二人に約4ヶ月の研修を経て、今現在の気持ちを聞いてみた。

菊地 悠 (神奈川県出身)

京都にある伝統工芸の専門学校にこの3月まで通っていた菊地さんは、和紙の魅力に早くから惹かれていた。高校時代はデザインの勉強もしていたが、機械でできるものより手作業のもの、体を動かしたいと思うようになり、手

渡き和紙に出会う。

専門学校の3年間和紙を専攻し勉強していた菊地さんは、一連の和紙ができるまでの工程なども学んできた。2016年夏に卒業後、どうすればいいだろうかと悩んでいたところ、三隅町で和紙の研修生を募集していることを知る。それから月に一度来町して研修をした。卒業してすぐに三隅町に移住し、和紙研修生としての生活が始まる。三隅町に来て一番驚いたことはと聞くと、「車につく黄砂の量に驚いた」という。体を動かすのが好きな菊地さんは、最近バレーボールの練習にも参加するようになった。パウンドが大好きという菊地さん。和紙の工程では特にそぞりをするのが好きだとも教えてくれた。

この地で職人として頑張りたいと語る菊地さんは、石見の人は優しく心が温まるという。末長くこの地で頑張りたいと、職人を目指して欲しいと心から願う。

ものづくりも浜田も好き！

浜田の生活に憧れて移住



瀬野田さんが作った革製品たち。ものづくりが大好きと語る。

瀬野田 真紀 (広島県出身)

広島県出身の瀬野田さんは17歳の頃から浜田に通って、ボディーパードやサーフィンをしてきた。20代の頃には少しブランドはあったものの30代後半になつて、また浜田に通うようになる。その頃から、浜田に住みたいという気持ちが強くなつたという。ふるさと島根定住財団が主催

するU・インターン相談会などに積極的に参加してどうにかして浜田に住めないかと模索する。移住するには、手に職を持つ必要があると感じるようになる。ものづくりが好きだった瀬野田さんは、石州和紙の研修生を募集している話を聞いてピンと来たという。

実際に研修してみると、0%来て良かった。という嬉しい答えが返ってきた。今まで色々な

しがらみなどで我慢していた事もあったが、今回はそれを振り切り本当に自分の好きな事に挑戦していると語る。今、芽かき・そぞり・塵取りなどの工程を早くできるように訓練しているところだ。

ものを作ることが大好きという瀬野田さん。今まで特に皮製品を作ってきたという。石州和紙で将来役に立つものを作りたいと意気込んでいます。是非頑張りたい。